

人文学部

メディア・表現文化学プログラム

取得できる学位 ★学士（文学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

本プログラムは、メディア論分野と表現文化論分野からなる教育プログラムであり、情報社会とマスコミュニケーション、映像文化、身体表現、サブカルチャーといったメディア・表現文化の多様な展開について、その歴史と理論を体系的に学ぶとともに、情報の創造とプロデュースについて実践的に学ぶことができる。様々な社会的場面において、的確でバランスの取れた情報の受容、伝達、分析、処理を行いながら、価値ある情報・表現を社会に送り出すことができる人材の育成を目指しており、マスコミや情報関連企業、あるいは自治体や民間企業の広報・宣伝部門や文化事業部門などでの活躍が期待される。また、「情報」その他の教員免許、博物館学芸員などの資格を取得することが可能である。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) メディア・表現文化の分析方法と理論について、基礎的な知識と理解を有する。
- b) サブカルチャーを含む現代文化の諸領域について、基礎的な知識と理解を有する。
- c) メディア・表現文化の各領域の歴史について、基礎的な知識と理解を有する。
- d) 各種の媒体（メディア）の一般的な特性について、基礎的な知識と理解を有する。
- e) メディア・表現文化と、法制度、産業構造、社会構造の関係について、基礎的な知識と理解を有する。
- f) 人文科学の様々な分野について、旺盛な関心と入門的な知識を有する。
- g) 社会科学や自然科学、医歯学などの様々な分野について、旺盛な関心と入門的な知識を有する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) メディア・表現文化の分析方法と理論にもとづいて、対象を分析し、批判的に理解することができる。
- b) サブカルチャーを含む現代文化の諸領域について、その特徴と価値を理解し、適切に記述することができる。
- c) メディア・表現文化を取りまく文化的・社会的・歴史的背景を理解し、対象を歴史的に位置づけ、比較することができる。
- d) 媒体（メディア）の一般的な特性をふまえたうえで、個別的な対象の特性を記述し、分析することができる。
- e) 文化と社会との関わりを批判的に分析して、メディア・表現文化の望ましいあり方を構想することができる。
- f) 知識を応用し、適切なメディアや手法を用いて、自分の考えや感情を表現し、発信することができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語及びその他の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。
- b) 様々な状況や立場を想像しながら、どこに問題があるのか見つけ出し、その問題の性質を明確に理解することができる。
- c) 問題の解決に向けて、情報を多角的に収集して分析し、効果的に活用することができる。
- d) 問題の解決に向けて、情報や知識を複眼的、論理的に構築することができる。
- e) 他者とのつながりを築き、互いを尊重しながら対話を営み、問題の解決に向けて協力することができる。
- f) 日本語や外国語、また適切なシンボルや手法を用いて、自らの考えを表現し、発信することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- b) 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- c) 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- d) 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

■ プログラムの履修要件

- ・しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲を持つこと。
- ・豊かな感性と強い関心を持って、学習に取り組むこと。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・人文学部では、授業科目開設にあたり、教養教育と専門教育の連携の上に構築された学士課程教育の中で、確かな専門知識と幅広い教養を涵養し、人文的実践知を育むことを目指している。